

奥会津だより



朝もやが漂う畑に 収穫した豆を干す
たっぷり陽を浴びた殻を細木で叩くと
シャラシャラと乾いた音色を纏って豆が躍り出るほすだ
秋晴れの予感がうれしい朝

写真：田沼隆之

すみ作り

昭和村立昭和小学校 六年 五十嵐 雄二

ほくのおばあちゃんは五十嵐ヤヨイといひます。そのおばあちゃんから聞いたお話です。

昔は、すみを作る人がたくさんいたそうです。かやで屋根を作り、小屋を作ったそうです。その小屋は山の中にあり、昔の知恵がたまっていました。かやは切った木の棒でささえたりしたそうです。それに、かべ土でかまどを作り、ドーム型にしてすみを作ったそうです。ほくのうちも、おじいちゃんも小屋を作り、おばあちゃんもすみを作ったそうです。すみは今も昔も大人気で、両原のおくの方には、今もすみを作り続けている方もいるそうです。すみは四〜五日間焼き、下の方にある空気を入る口を閉じ、空気をしゃ断し、完成させたそうです。すみはしつ



かりかんそうさせなければならなかったそうです。そしてこれらは全て、冬の間に行うそうです。冬の間に行った方がそりて木を運びやすく、すくもつかったそうです。すみは今、とても貴重なんだそうです。山の木を使うのが一ばんのだったそうで、木を切りたおすのは大変だったそうです。昭和二十年生まれのおばあちゃんも大変だったそうです。

今日教えてもらったことは、昔の人の知恵も体力もすくつかったんだなと思いました。すみを作るのも大変だし、小屋を作るのも大変だし、すくく大変なことがたくさんあったみたいだけれど、すくくおもしろそうだなと思います。すみの貴重さを改めて実感した一日でした。

取材ノート

祖母：五十嵐 ヤヨイさん
(昭和二十年生 七十二歳)
祖父：五十嵐 文雄さん
(昭和十七年生 七十六歳)
孫：五十嵐 雄二君
(平成十六年生 十三歳)
(昭和十一年)

Q：この写真はいつ頃撮られたのでしょうか？

Yヨイさん：嫁に来てからだな。昭和四十年代の後半かな。炭焼き、私も行ってたんだよ。ダンナは、三月までやってたんだ。ここから歩いて一時間ぐらいのところだった。こういう小屋をかけた、泊まってる炭焼きやってたの。こういう炭焼き小屋を建てて、居るところは別だったの。

Q：自宅とは別だった？

Yヨイさん：そうやあ、すぐ近くのことにな。

Q：小屋はいくつあったんですか？



Yヨイさん：三〜四軒くらいだ。仲間で作ってたの。

Q：皆知り合ひでは、朝食は一緒ですか？

Yヨイさん：いや、みなでんでわい。朝餉食べつと山に出つちまうからや。私は、こめらがちつちいがつたから、そんなに長くは山に居られなかった。

Q：雄二君、この写真に人が写っていますね、気づきましたか？

雄二君：それ話したんです。じいちゃんじゃねえ？ということだったんですが、結局わかりませんでした。

Q：かやで屋根を作る、かやは山にあるのですか？

Yヨイさん：そんねえ、こつちで刈って山に持って行くのよ。秋の頃刈って持って行って、雪降る前に小屋の屋根をかけたちまうの。

Q：昔の知恵とは？

Yヨイさん：風呂だつてドラム缶で、薪で焚いていたなあ、山だから。炭出した時なんか真っ黒になんべ、風呂は毎晩入った。

Q：炭焼き窯の大きさはどれくらいでしたか？

Yヨイさん：窯はおつきいわい。文雄さん：五畳〜六畳あったな。炭六〇キロで、五二〜五三袋出たんだが、煙が黒から白くなって、青くなる。その青い煙が消えたら、空気を入れないようにする。そして、その後四〜五日そのままにしておく。

Q：この頃のチエンソーは、どこで買ったのですか？

文雄さん：田島の「中屋」。今のチエンソーみたいな調子のいいヤツではなかった。マッカラーというアメリカのヤツ。

赤と青色が入っていたな。
Yヨイさん：混合油は、秋の内に小屋にあげておいた。

文雄さん：二〇〇リッタードラム缶を上げておいて、オイルは一八リッターだったな。

Q：山で大変だったなあ、と思ったことは？

Yヨイさん：こめら置いて、こだごとしてんのは大変。電話も携帯もねえべ、家のこと心配で、こめらなじよがああ？なんて心配で…。

Q：山で夫婦喧嘩は？

Yヨイさん：文雄さん：やったことない。
雄二君：夫婦喧嘩やるヒマがなかったんじやない？
お二人は今年、金婚式を迎えた。

写真・文責：菅 敬浩

奥会津の植物 〈ヒメスッポンタケ〉 写真・文：新国 勇



山中に生え、特異な色と姿で異彩を放つキノコ。長い柄の先に釣り鐘型の傘がついているのをスッポンに見立てた。夏から秋、腐った倒木などに群がって生える。不快なおいがするが、八工が好んで集まるといふ。



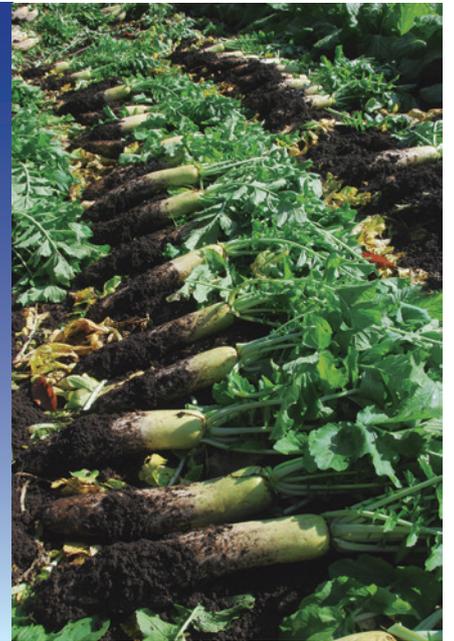
野山で遊ぶ

〈ヤマナシ拾い〉

春に真っ白な花をつけたヤマナシが、ポタンドタンと音を立てながら実を落とし、地面を覆う。見るからにおいしそうだが、実は、味も食感もいただけない。それでも捨てるのは、宮沢賢治の「やまなし」に出てくる「クラムボン」という不思議な言葉を思い出すからかもしれない。

大根の収穫

引き抜かれた大量の大根は自家用として冬を越す。冷たい水で洗って、春先まで食するようにワラ床に積上げて更にワラで覆うと、凍みることもなく新鮮なまま冬の食卓を賑わしてくれる。大切な冬の野菜だ。



暮らしの道具

写真・文 竹島善一



トウミ(唐箕)

ソバを脱穀する。まずソバの実を打ち落として箕でふるい大きなゴミを取り除く。

後方に写る「トウミ」といわれる風力利用の選別機で軽いゴミを吹き飛ばし、重い実を選別する。

人力による仕掛けで送風機を廻すと、リズムカルな音と共に仕事がかどる。木材と建具やの技術で製造できるトウミを発明した人の工夫（おしる）に関心する。トウミも筵も、最近（おしる）は納屋の奥にしまわれたままだ。

(昭和五十七年十月 金山町太郎布)

奥会津の食材と料理

むかご飯(零余子飯)



晩秋の季語にもなっているむかご飯だが、ナガイモやヤマイモのツルからパラパラとこぼれる小さな実のような新芽は、栄養価も高く、ホクホクした食感が好まれる。米と一緒に炊き上げるだけのシンプルな料理。新米にむかごを入れたご飯は、秋の醍醐味。

奥会津の生き物 〈アオサギ〉 写真・文：新国 勇



奥会津では30年ほど前から見られはじめ、いまではふつうに生息する。もともと海岸付近を生息域にしていたが、次第に内陸まで進出してきた。その理由は、開発によって淵や瀬のある自然河川がなくなってきたからと考えている。浅瀬の多い人工河川になると、アオサギは容易に立つことができ魚を捕らえやすくなるからだ。

Q方言クイズ

クイズに答えて奥会津の地場産品を貰おう!

問題：次の方言の意味は何でしょう？

「**こだごと**」 ヒント：P2.「聞き書き百選」をご参照下さい。

正解者の中から抽選で5名様に、檜枝岐村の「花桶」をプレゼントいたします。

●応募方法：官製ハガキに**奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号**を明記の上、**答えをお書きください。**

●あて先：〒969-7511
福島県大沼郡三島町大字宮下字中乙田979
奥会津書房 宛

●応募締切：2017年12月15日消印有効

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。 ※クイズの答えは次号102号で発表いたします。



◎100号「ぬかる」の答え：泥土に足をとられる
たくさんのご応募ありがとうございました!

読者コーナー



- 100号おめでとうございます。封筒を開けると会津の空気をそのまま運んでくれるようです。(横浜市：T.Tさん)
- 1号から100号までの表紙写真を再掲特集または展示会を開いてほしいですね。感動すると思います。(新潟市：H.Tさん)
- 「聞き書き百選」のコーナーでは、インタビューに答える優太さんの姿を見て「今の時代にこんな素直なお子さんがいる!」と思いました。(仙台市：A.Sさん)
- 「百」に因んでの記事は写真入で楽しい。文章は格調溢れており感心しています。(宮城県亘理郡：O.Mさん)
- 読み終わった後も捨てられず、時々めくったりしています。どのコーナーも素晴らしく思わず膝を打ちたくなってしまいます。出会えてよかった。(下郷町：M.Tさん)
- 智恵を絞ったお土産品の数々に感動です。(羽生市：S.Sさん)
- 一口に100号といっても、今までのご苦労がしのばれます。表紙の写真に癒されます。(栃木県那須町：S.Tさん)

奥会津だより
定期購読者募集中

ご希望の方は事務局まで発送先(ご住所・お名前)をご連絡ください。
問い合わせ先：只見川電源流域振興協議会事務局
TEL.0241-48-5525 FAX.0241-48-5575
E-mail: webmaster@okuaiizu.net

奥会津振興センターからのお知らせ

ふくしま大交流フェスタ

入場
無料

・日 時 平成29年12月23日(土) 11:00~17:00
・場 所 東京国際フォーラム ホールE

内
容

福島を見て、触れて、味わうというコンセプトで開催されます。豪華ゲストが出演するステージイベントの他、福島の酒、グルメ、伝統工芸に移住相談カフェと魅力の詰まったイベントとなっております。当協議会も出展予定です。ぜひ皆さんお越しください。

参考まで：<http://www.fukushima-daikoryu.jp/>

奥会津イベント情報

12月~1月

日時	イベント名	町村名	場所	問合せ
12月16日(土)	会津高原たかつえスキー場オープン	館岩地域	会津高原たかつえスキー場	会津高原リゾート(株) ☎0241-78-2220
12月23日(土・祝)	三島町営スキー場オープン	三島町	三島町営スキー場	三島町教育委員会 ☎0241-48-5599
	フェアリーランドかねやますスキー場オープン	金山町	フェアリーランドかねやますスキー場	オープン前：道の駅奥会津かねやま ☎0241-55-3334 オープン後：フェアリーランドかねやますスキー場 ☎0241-54-2022
	只見スキー場オープン	只見町	只見スキー場	会津ただみ振興公社 ☎0241-83-1733
12月下旬	会津高原南郷スキー場オープン	南郷地域	会津高原南郷スキー場	会津高原南郷スキー場 ☎0241-73-2111
	会津高原高畑スキー場オープン	伊南地域	会津高原高畑スキー場	会津高原高畑スキー場 ☎0241-76-2231
1月1日(月・祝)	元朝詣り	柳津町	福満虚空藏菩薩圓藏寺	柳津観光協会 ☎0241-42-2346
	1月4日(木)			
1月5・6日(金・土)	第4回Teton Bros.檜枝岐カップ(SL、GS)	檜枝岐村	尾瀬檜枝岐温泉スキー場	スキー大会事務局(檜枝岐村役場総務課内) ☎0241-75-2500
1月7日(日)	七日堂裸詣り	柳津町	福満虚空藏菩薩圓藏寺	柳津観光協会 ☎0241-42-2346
1月13日(土)~28日(日)	山人・厳冬まつり	檜枝岐村	檜枝岐村内(旅館・民宿)	尾瀬檜枝岐温泉観光協会 ☎0241-75-2432
※1/13の宿泊~1/27の宿泊までが対象				
1月15日(月)	国指定重要無形民俗文化財「三島のサイノカミ」	三島町	三島町各地区	三島町教育委員会 ☎0241-48-5599
1月中旬	歳の神	伊南地域	伊南地域各地区	南会津町観光物産協会伊南観光センター ☎0241-64-5711
	歳ノ神	館岩地域	館岩地域各地区(前沢・湯ノ花・八総・高村原集落)	
1月28日(日)	只見毎日杯GS大会	只見町	只見スキー場	会津ただみ振興公社 ☎0241-83-1733



発行：只見川電源流域振興協議会(柳津町・三島町・金山町・昭和村・只見町・南会津町(南郷、伊南、館岩地域)・檜枝岐村)
発行日：11月15日発行(年6発行) 事務局：〒969-7511 福島県大沼郡三島町町民センター(奥会津振興センター内) TEL.0241-48-5525
<http://www.okuizu.net> ☎webmaster@okuizu.net 編集：奥会津書房 福島県大沼郡三島町宮下 TEL.0241-52-3580

★只見川電源流域振興協議会は、福島県只見川流域の7町村の活性化と振興を図るために活動している団体です。

この冊子は電源立地地域対策交付金の事業により作成されています。